

津 守 眞

(一) ミネアポリス盲児ナース
リースクール参観記

先日、盲児のナースリースクールを参観しました。(Lyndale-Fantlyn Ave)の角のビルディングが Minneapolis Society For the Blind になっていて、一番通りに面した所は、盲者用品売場になって、ガラス張です。店を通りぬけるとすぐ、ナースリースクールです。勿論、中に入つてしまへば、全く別世界です。二階には、更以上の学級もあるようですが、見ませんでした。ナースリースクールは九時から十一時半までです。室内は、昼も電燈を必要とするような建て方です。勿論、螢光燈です。

室屋の周囲は大人の目の高さは一画ガラス張になっていきます。詳しいことは、印刷物の方で分りますから、印象だけお知らせしましょう。

此のナースリースクールは、大学が研究を後援するという事になっていて、保母養成所の学生が、二人づつ、二週間づつ交替で来ています。それから又、大学の、医学部の看護婦養成所から学生が二人づつ、これも二週間交替できています。専任の先生は一人だけで、私を快く迎へてくれました。ここでは子供の表情が少く、何か、とても悲惨な感じがしました。盲の四才児が大部分で、中に、子供は盲ではなくて、両親が盲の者も含まれています。丁度 Vale

Hino で、カードの交換がありました。子供達は余り、興味を持っていないようにしました。往復は、父か母が、附添つています。

建物は、大学のフラタニティーの同意会から寄附され、すべて共同募金によつて賄われ、父兄の負担なしに、盲の幼児が、教育の機会が得られるというのは、とても良いことだと思いました。特に、特殊な訓練というのに行われなくて、社会生活に重点がおかれています。先生は、まだ中年前の元気の良い明るい人でした。すべてのおもやに、違ふ昔のベルがついていることは、むしろ当然でしょう。(一九五二年二月)

(二) アガシー・スクール参観
記

(Agassiz School)
— ミネアポリス市聾学校 —

偶然の機会に、聾学校を参観しましたので、お知らせ致します。ここに精神薄弱のクラスがあるというので、大学の Dr. Harris に紹介状をもらつてありましたので、電話しましたら、まだ精神薄弱のクラ

スはできていないとの事でした。それでも参観に来ないか、との事でしたので出かけていったわけです。

この学校は最もありふれた形の公立学校で、二階が全部聾児にあてられています。

	Deaf		Hard Hearing	Hearing aids
	Congenious	Advent		
Nursery	5	2	1	0
Kindergarten	7	0	1	0
1st grade	4	4	2	4
1st grade	7	1	1	0
2~3 "	0	0	9	2
2~3 "	5	1	1	5
4~5 "	6	0	0	2
5~6 "	2	0	5	6
Total	36	8	20	19

そういうわけで、見学者も少ないのです。先生方に、とても歓迎されました。

子供の種類、数、クラス分類は上表の通りです。

ナースリースクールは四歳、キンダーガルテンは五歳です。小学校級は、程度によつて二歳位該当年齢を越えたものもありま

す。 ナースリースクールと、キンダーガルテンは、それぞれ、遊ぶ部屋を二つと、バスルーム(脱衣と便所)を持つて居り、窓が大きく非常に明るく作られてあります。始めナースリースクールにいきました

が、子供達が来た所で、皆で笑つたりふざけたりして、とても明るい印象を受けました。一つの部屋は、中央に補聴器訓練の椅子が一行に並べてあります。丁度、いつも子供と遊ぶ先生が三日ばかり病気で休んでいるので、子供が乱雑だと、しきりに説明されました。ナースリースクールには、もう一人、言語訓練専門の先生がいて、二人でやつているわけです。

言語訓練は、二人づつ個別的にされます。続いて、上の二つのクラスにいきました。丁度社会科で、世界地理をやつていて、私が丁度良い材料になつて地図を見な

がいろいろの話をさせられました。上級のクラスでは、二、三の子を除いては、私のような外人でも、リツプリーディングで自由に話す事ができました。あげくに子供達が、昼食を僕にごちそうしてくれるといつて、昼食を共にしました。聾児だけの食堂があつて、一つのテーブルをクラスで占めるようになっています。子供達としゃべりながら、たのしい食事をしました。食後一時半まで、子供は外で遊ぶことになつています。

キンダーガルテンの先生が遊びにきて、他のクラスにばかり行かないで、自分の所もみてくれというので、やつと上級のクラスから解放されて、キンダーガルテンにいきました。子供がいない間は、閑だから、といつて、子供のことをいろいろ説明してくれました。

此の学校の先生は、皆女です。校長先生も女です。そして、キンダーガルテンの先生を除いては皆、相当年がいつています。子供達はかなり遠くからも来ますが、三年までの子は、タクシーキャブが家庭を廻つてこゝに連れてきます。交通費は州が負

担します。父兄の負担は、食費だけで、毎月三〇セントです。尙又、今四歳以下の聾児をどうするかということが問題になっていて、四歳以下の子供と母親のために、市の児童局が、一月に一回づつ、会合を持つて、指導をしています。又此の学校でも、PTAの会合には、四歳以下の子供の組も加つて、毎月、専門家の話をきくことになつてゐるそうです。入学の時には、市の児童局で知能検査をするそうですが、聾の精神薄弱のためのクラスはないので、精神薄弱も入つてくるそうです。今、かなりひどい精神薄弱聾が、学校に四人いるそうです。

こんなことをきいているうちに、子供が入つてきて、言語訓練が始まりました。色紙をひろげておいて、先生が色の名前を言つて、その上にお手玉をおとさせます。皆こぞつてやりたがります。それから、アルファベットで、色の名前をつづつたのをみせて、正しい色を拾わせます。十種類位の色を、殆ど間違はずにやつたので、先生は得意そうでした。

ナースリースクールでも、四歳の子供が

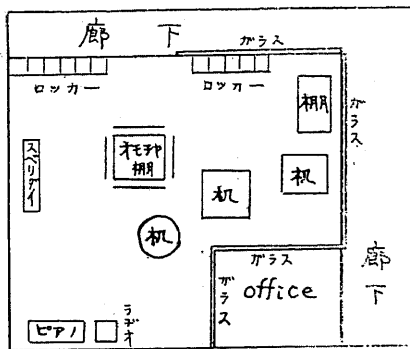
文字板をよんで、その指示通りにふるまうというのを、先生が得意になつて説明して見せてくれました。例へば、Walk というカードを見ると歩くのです。やはり、こういう学校の特長として、言語訓練に重きがおかれるので、自由遊びの指導が充分でないように思われました。それでも、先生の態度がきわめて明るいこと、子供がこゝくして楽しんでゐるようが見えたことは確かです。

又、必ず訪ねることを約束して別れました。学校は土、日を除いて三時迄あります。

上級の子達はすぐその後で Guest from Japan という題で作文を作りました。なか／＼面白いものでした。

先生が、忽ち予定を変更して、私を利用して、いろいろの指導をしたのは、なか／＼手際のいいものでした。この前、普通学級の五年生を参観した時は、子供がやはり私に興味をもつたのですが、先生が迷惑そうな顔をして、子供を制止したのですに。

図はミネアポリス盲児
ナースリースクール見取図



(お茶の水女子大学講師
米國ミネソタ大学大学院在学)